



真鶴中学校だより 第二四五号

鶴からの手紙

2022

11.29

責任者

市川 麻美

「秋から冬へ・・・」

十一月は、晩秋から初冬へ、「冬の取っ付き」といわれます。「小春日和」という言葉が使われる時季です。

夏目漱石は、「秋から冬になる間際が、一番空が高く見える」と言っただけです。短編の『趣味の遺伝』で「研ぎ上げた剣を懸けつらねたごとく澄んでいる」空、「羅(うすもの)に似た雲の、微かに飛ぶ影」と秋の空をうたいながら、無限の空はこんな空を望んだときこそ言えるものだ、と言っています。また、『三四郎』でも、白い雲を「刷毛(はけ)先で掻き払った痕の様に、筋違いに長く浮いている」とも表現しています。

北原白秋も四行詩で、「空に真つ赤な雲のいろ／＼玻璃(はり)に真つ赤な酒の色／＼なんてこの身が悲しから／＼空に真つ赤な雲のいろ」と、小春の季節の夕映えが心に染み

込む、過ぎ去る秋への名残の挽歌にも思えます。

晩秋と初冬の比重が行き来しながら、本格的な冬を迎えます。

感染症(インフルエンザも含む)対策を徹底しながら、夜長の季節に様々な思いをはせながら、じっくり自分と向き合い、心身共に健康に過ごしましょう・・・

『一年生 職業人講話』

いろいろな方の話を聞いて、どの職業も誰かのために働いていると思えました。例えば、みかん農家の人は、みかんを作って、その栄養が自分の身体につながっているんだと感じました。石材業の人は、真鶴で一二〇年前から採られた本小松石が、いろいろな場所に使われていたり、看護師さんは、相手の気持ちに寄り添って働いていたり、役場の人は町民を支えたり、と自分がやりたいからやる



漁師さん達の苦労や努力を感じながらいたきたいと思っています。
二年一組 若林 新八

『二年生 職業体験』

十一月十日(木)に二年生は職場体験に出かけました。町内の二十事業所にお世話になりました。お礼の手紙の中から一部紹介をします。

*写真と本文とは、関連していません。

【真鶴町漁業協同組合】

毎日あんなに寒い早朝から仕事をしています。みなさんは凄いなと思っていました。何も分からない私達に優しく接していただきありがとうございました。これからは、スーパーや食卓で魚を見たときは、

【リハビリ特化型タイサービス活動】

体験の中で印象に残ったことは、みなさんが明るくて、とても雰囲気良かったことです。そしてお年寄りが元気に体を動かすことを支えている仕事はとても大切だと思いました。今回の体験を通して学んだことを、これからの生活の中で生かしていきたいと思います。

二年一組 長谷川勝人

【御菓子司 やない】

私が特に印象に残ったことは、ハンコ押しとあん玉を包んだところ。ハンコ押しでは、くつきりと印を



残すために力いっぱい押していたのですが、たった三十分でも手が痛くなりました。このことだけでも、やないさ



んと女将さんが
四十年間、毎日
お店の味を守っ
ていることが伝
わってきました。
私も頑張れるよ
うな気持ちがあ
わいてきました。

二年一組 常磐 美結



『バスケット ボール部』

私達は、今回の新人大会を通し
て、日頃の練習の中で成長できて
いるということが実感できました。

練習してきた一人ひとりの動
きやチームでの動きを生かし、試
合に臨むことができ、今回の大会
で初勝利することができました。
この結果から、積み重ねてきた練
習がものになっていることを、実感
することができました。そして、こ
れからの試合の自信にも繋がりに
なりました。



しかし、
その中で
新たな改
善点も見
つけられ
ることが
できてい
ます。

ました。チ
ーム目標
「尊敬し合
えるチー
ム」に少し
でも近づけ
るように一
人ひとりが
努力し、次
の大会に向
けて精一
杯頑張りたいと思います。

二年一組 松本 菜楓



『バレーボール部』



私達は、
十月八日
と十五日
に、地区新
人大会が
ありまし
た。二日と
も泉中学
校との対
戦でした。
結果は負
けでしたが、
私達の課

題を見つけ
ることがで
きました。そ
れは、緊張で
足が動かず
ミスをした
り、スパイク
を上げるこ
とができず、
攻撃に繋が
られないこ
とです。なの
で、私達は



試合後の練習から、緊張感を持っ
て練習し、スパイクを上げて攻撃
ができるようにレシーブ練習をた
くさんしました。

そして、十月二十九日の県西ブ
ロック新人大会では、南足柄中学
校に勝つことができました。

私達は、負けても何ができて何
ができなかったのかを考えて、次
に繋ぐことの大切さを学びました。

二年一組 青木 汐夏

お詫び

前号でお知らせ
しました、花いっば
い運動で中心にな
って取り組んでいた
のはPTA環境委員
会ではなく、PTA環
境ボランティアでし
た。申し訳ござい
ませんでした。

11月24日、サッカーワールドカップで、日本代表がドイツに歴史的勝利を収めた翌朝、FIFA 公式 Twitter が代表選手のマナーをたたえるツイートを投稿しました。「ロッカールームがピカピカに片付けられている!」日本代表が使用していた、ロッカールームの様子。食事の後はきれいに片付けられ、タオル類もきっちり畳まれている様子を約5万件の「いいね」が寄せられています。続くツイートでは、テーブルの様子をアップで紹介。そこには「ありがとう」の言葉とともに、日本代表が残っていた大小の折り鶴が写っていました。FIFA は「日本のサポーターはスタジアムのゴミを片付け、選手はこのような更衣室を後にしました」と。開幕戦でサポーターがスタジアムのゴミを拾って帰るなどのマナーにも言及しつつ、日本代表を称賛。「Domo Arigato(どうもありがとう)」とツイートを締めくくっていました。

試合に勝った負けただけではなく、関わっているすべてにリスペクトをしていると、世界中から注目が集まっています。すべての方が、そのようになれると素敵ですね。まずは、自分(教頭)から!